

まして、今泉地内の民有地がございます、その地下に汚水管路が埋設されております。その土地に関しまして、12節役務費15万7,000円、こちらは不動産鑑定の手数料でございます。その下、13節委託料95万5,000円につきましては、用地の測量業務の委託料でございます。合わせて111万2,000円を増額いたしまして、目の合計を4,245万8,000円とし、項の合計を6,814万5,000円とするものでございます。この財源といたしまして、4ページの歳入でございますが、5款1項1目一般会計繰入金、こちらを111万2,000円増額し、1億1,383万2,000円とするものでございます。

以上をまとめましたものが前のページの事項別明細書の総括、それから農集の2というところ、第1表ということでございます。

以上が議案第48号の説明でございます。よろしくご審査お願いいたします。ありがとうございます。

## 平成29年度長井市各会計補正予算案に関する総括質疑

- 五十嵐智洋委員長 概要の説明が終わりました。これから質疑を行います。  
ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

### 内谷邦彦委員の総括質疑

- 五十嵐智洋委員長 順位1番、議席番号4番、内谷邦彦委員。  
○4番 内谷邦彦委員 おはようございます。予算総括、一番手として、創生会の内谷邦彦です。

予算総括質疑、通告に従い質問させていただきますので、回答のほうをよろしく願いいたします。

文教常任委員会協議会にて教育委員会教育総務課より説明のありました10款教育費、3項中学校費、1目学校管理費、004学校施設管理事業、02大規模改修事業等で長井北中学校グラウンド改修工事、1万3,000平米、昭和57年開校時にグラウンドの造成整備を行っているが、以来35年が経過し、シルト部分、細かい砂が浮き出ており、水はけが悪く、南側に集水し、バックネット裏を洗掘している状態にある。表面をすき取り攪拌し、表面処理を行うことにより機能回復を図るとしており、費用については940万円、税抜きとなっております。

最初に、教育参事にお伺いいたします。今回、北中のグラウンドについて改修を行うということですが、同時期に造成した南中のグラウンドについてはどのようになっているのかお伺いいたします。

- 五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。  
○横山賢一教育参事 おはようございます。お答え申し上げます。

長井南中学校のグラウンドにつきましても北中学校と同様、水はけが悪い状態になってございます。特に陸上トラック部分が悪くなっておりまして、対応が必要と考えておりますが、北中学校のようなり面の洗掘が小規模でありまして、北中よりは状態がよいというふうにご考慮しております。

また、南中学校のグラウンドのサッカーコートにつきましても、平成25年度に同様の土壌改良工事を行っているところでございます。以上でございます。

- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。  
○4番 内谷邦彦委員 北中に関して、このような状態になる前の状況として、通年のグラウンド整備、どのように行ってきたのか。また、何

年前からこのような状態になっていたのか、あわせてちょっとお伺いできますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 日ごろのグラウンドの整備につきましては、雨などで削られた箇所等への土の補充、あと部活等で使用後のレーキかけ、掃除の時間の草むしり、あと運動会前などの保護者の協力によります草むしり等を実施しているところでございます。

次に、何年前からこのような状態なのかについては、平成23年度に同様の改良工事を行っておりますが、その時点で全面的に状態が悪くなっていったようでございます。当時は中体連のサッカー競技の県大会会場となっておりますので、優先的にサッカーコートの部分のみ改良したところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 工事内容として、その表土すき取り2センチってありますけども、2センチすき取る効果についてちょっと確認させていただきたいんですが、水たまりができていう状況からすると、その2センチ程度表面を取っても、浮いてきている細かい砂の部分が取れるだけだというふうに考えておるんですけど、その辺はどのように考えていらっしゃるのか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 その2センチの部分であります。そのシルト部分につきましては、採砂、細かい砂と粘土の中間的な粗さの土粒子から構成されてる沈泥というようなことでありまして、この泥成分が、いわゆるその透水性が低く、水が浸透しづらいというようなことから、その水はけが悪くなっているというふうな原因になっているというふうに思っておりますので、その表土を剥ぎ取るというようなことでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その後、砂を敷くという

ことになってるんですけども、その砂だけなのか、私ちょっとネットで調べたんですけど、混合土として土が6とか砂が4とか、何でその砂だけを入れるのかをちょっと教えていただければと。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 粒子の細かい土は水分を含んでしまいますと、うんでしまい、水のその透水性を阻害するというようなことから、今回はその目の粗い砂というようなところを使用するというようなことでございます。

あと、表土を2センチすき取りしまして、砂を2センチ入れた後に既存のグラウンドの土と10センチ攪拌混合することによりまして、適度な透明性と締め固め度が確保できるというふうに考えております。最終的には砂じんの舞上がりを防止するために塩化カルシウムを散布いたします。以上でございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 また通常その低いところには多く入れて、高いところには少なくするように、測量を行って、均等に平らに行うという形になるんですけど、事前にグラウンドの測量というのは行うんでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 現況を把握する必要がありますので、事前には測量を行います。また、野球のベースやマウンド、陸上のトラックのラインも改修後に復旧する必要がありますので、測量は事前に行います。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その攪拌混合10センチってあるんですけども、グラウンドには暗渠パイプが埋まっているというような話でしたけども、そのパイプはどの程度の深さに埋まってて、そのパイプを破壊するおそれはないのかをお伺いできますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 昭和57年度の設計当初と見ますと、グラウンドのG L、いわゆる地盤面から50センチ以上の土かぶりがあるということが確認されましたので、管を破壊するおそれはないというふうに考えてございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その攪拌について、どのような機械で行うのか、わかれば教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 基本的には攪拌機というような機械がありますので、そこで攪拌するというようなことでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 暗渠配管について、そのグラウンドに暗渠配管が埋まっているということなんですけども、暗渠配管って、その出口ってというのはあるんでしょうか。基本的にその中に、グラウンドの中にパイプを埋めていくと、当然パイプの中にたまった出口が外に出す明渠配管って出てくると思うんですけども、この前、北中のグラウンドへ行って、グラウンドの周りを確認したんですが、穴がないんですよ。その側溝に穴が全然ないんですよ、周りの側溝に。で、その側溝のところは逆に埋まっちゃってるのね、側溝がまるっきり、南側のほうが土で完全に埋まってて、側溝として役目を果たしてないんですけども、その辺ちょっと確認されているのかどうか、教えていただけますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 基本的に、暗渠の部分、水がそこに集まるわけですので、排水が集まるわけですので、集水ます等々に流れていくというふうに私は考えておるんですが、今、内谷委員おっしゃったような状況等々については、現状を私もちょっと把握しておりませんので、担当の者にそういうふうな状況については把握させていきたいというふうには考えております

し、いずれ現況を工事の際は、始まる前はですね、測量に入るわけですので、現況等を十分把握しながら、工事等には進めてまいりたいというふうに考えてございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 工事関係者もいいんですけど、教育委員会の方がやっぱり北中のグラウンド行って見ていただくと、私は1回行っただけですが、何でこの配管、土に埋まっちゃって、側溝が土に完全に埋まっちゃって側溝の役目を果たしてないという部分がありましたので、何でこの、逆に言うと、その側溝は今までじゃあ掃除も何もしてこなかったのかというふうな部分を思ったわけなんですよ。ほんで今まで完全に土が流れて埋められたみたいな感じ、要するに小高い丘、要するに桜の木を植えてますんで、そちらのほうから土が流出して、完全に側溝が埋まっちゃってるという状況なものですから、その辺は今後すぐにこういった工事を行う場合は、担当者が直接行って確認しないと、やっぱりその部分はわからないと思うんですけど、その辺は今回なされなかったってことになるんでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 担当の部分につきましては、現状、写真等撮っております、グラウンドのその排水の状況であったり、洗掘されている状況であったりというような部分については十分把握してございますので、その側溝のところはどのような状況になっているかは、ちょっと私も聞いておらなかったものですから、この場では即答はできませんが、担当の者は十分何回かお伺いして把握しているということでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 グラウンドだけでなく、その周囲も当然影響を及ぼすと思いますので、やっぱりその辺の周囲も一応確認していた

できればありがたいと思いますので、今後はその辺も注意しながら見ていただければと思います。

次に、その石の不純物の除去ってあるんですけど、通常グラウンドに除去しなければならぬような石はないと思いますし、その不純物とは何を指すのかで、通常攪拌の後に手作業でこぼこを直すために整地するはずなんですけど、そのような作業は行わないのかどうか、わかれば教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 ここで言う不純物とは、草や木、石や草というようなことでございまして、攪拌中に石や草が見つければ、やはり取り除くというような形になります。攪拌後はモーターグレーダーによります敷きならし、あとマカダムローラーによる転圧を行うというふうなことでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その転圧というような大きな作業では、それで終了になると思うんですけども、そこまでの工期っていうのは大体どの程度を見込んでいるのか。通常グラウンドで言えば、その表面を取って入れて、攪拌して転圧するだけだと、四、五日で終わるような気がするんですけど、その費用について940万円、その費用の妥当性についての検証はどのように行っているのか教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 工期等々につきましては、やはり天候に大きく左右されるというふうなことで、作業日は20日程度というふうを考えております。

ただ、材料や重機の手配、打ち合わせ等の準備行為や後片づけ、こういうようなものを含まして2カ月程度かかるというふうなことを考えてございます。

また、費用につきましては、業者から見積も

りをもとに積算単価を精査してございます。また、平成25年度に南中学校グラウンドのサッカーコートの土壌改良工事を行っておりますが、その土地の面積が7,000平米で、請負金額が税別で640万円というふうなことでありますので、1万3,000平米に換算いたしますと1,180万円ぐらいになりますので、今回の940万円というふうな金額についても妥当なのかなというふうには、私どもでは考えておるところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 通常グラウンドに水勾配というのをつけると思うんですけども、どの程度の勾配をつける予定なのか。あと、この工事によって、その品質が保てる期間というのはどの程度を見込んでいらっしゃるのか。今までに同様の工事があった参考例があれば教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 平成23年度に北中のサッカーコート、あと平成25年度には、今申し上げました南中のサッカーコートを同様に施工しているところでございます。この間、水はけが悪くなっていないというふうなことから、暗渠排水は機能しているというふうに考えております。そうしたことから、表面勾配につきましてはほぼ水平にする予定であります。なお、現況を調査して、現況に合わせて施工する予定ではございます。

また、品質等が保たれている期間につきましては、やはりグラウンドの使用状況や天候等に大きく左右されると思います。なお、23年度に整備いたしました北中のサッカーコートにつきましては、現在のところ特段問題等は発生していないというふうなことでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、その先ほど言ったように、北中のグラウンドを確認したんですけ

ど、野球場の1塁側と3塁側とも桜の木を植えてますよね。桜の木があって、小高い丘にずっとなってるんですよね、グラウンド。で、雨が降って水がたまった場合に、雨水の逃げ場がないんですよね。そのグラウンド状態に水がたまった場合、当然両サイドは高くなっていますから、90度方向で。そうすると、水が逃げ道がないので、高いところから低いところに流れるとなると、バックネットに当然集まってくるしかないんですよね、水。バックネットに集まって、一番低いところから流れると、協議会で写真で説明いただいたように、あそこにしか流れない。だからあそこが要するに水で掘り返されてあのような状況になっていると思うんですよ。

で、今回も同じような状況のままやっとなると、当然大雨が降ったりすると水の流れる場所ないですから、90度方向に、桜の木の植えられて丘になっていますので、水、流れていかないと思うんです。そうすると、また同じような状況が起こるんじゃないかというふうに心配してるんですけど、グラウンドからグラウンド外に逃がすための水をどのように、逆に排水するかって考えていかないと、今だと完全に90度方向で丘で区切られていますから、真ん中に集まってくる、バックネットのほうに来て、バックネットのほうから水が逃げざるを得ない、たまった水は。全部浸透するとは思いませんので、そのたまった水の逃げ道をつくっていかないと、また同じようなことが起こるんじゃないかと思うんですけども、その辺は考えていらっしゃるのか、その現状を見て、その辺までは考えていらっしゃるのかをお伺いできますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 平成23年度に実施しましたサッカーコートの工事の内容等と参照しまして、完成検査等の数字等も確認したんですが、勾配的には0.1%ぐらいの勾配しかついてなかったというふうなこともありますので、そうしたと

ころ、基本的には暗渠排水で処理できるのかなというふうには考えているところではありますが、なお、先ほど申し上げましたように、現況を把握というか、見ながら、必要であれば、当然競技等々に支障のないような勾配はつけることになろうかなと思います。

ただ、それはあくまでも現況をちょっと見てからというふうなことで、測量を行って考えていきたいというふうに思っています。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 桜の木が植えてあって、両サイドが高くなっているわけですから、雨降って、全部浸透できなくて、たまった水の逃げ場がないのは、もう見たらわかると思うんです。現状やっぱりそういう状況が、現行のバックネットの脇のあれが洗掘されてるのは、そういう状況でそこが洗掘されてるんだろうと思ってるわけですから、やっぱりその状況を何らかの形で解決しないと、また何年か後、要するに今、異常気象とかなんとかいって、かなりの大雨が降った場合に、必ず同じ状況が起きると思ってるんですよ。

そういった場合、桜の植えてある丘の部分、何カ所かを切って、そこから水が流れるような形を持っていかないと、たまった水が逃げ場ないわけですから、要するに勾配をつけられても、その勾配をつけた水が、じゃあどこに流れるかっていうところまで検証してやっていかないと、当然水の逃げ場をつくってあげないと水は逃げないわけですから、その辺までちょっと考えながら、ぜひやっていただきたいと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 委員からご指摘いただきました部分も含めて、業者のほうとも打ち合わせをしながら、そうしたことのないように対策を講じていきたいというふうには考えてございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 よろしくお願ひいたします。

あと、その工事期間中、生徒への安全対策に関してはどのような対策を打つつもりなのかを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 安全対策の部分につきましては学校や、やはり施工業者さんと十分に協議をしながら、工事箇所及び工事車両の動線と、生徒、来校者の動線とが重ならないような指導をしていきたいというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 生徒への安全対策というのは非常に重要な部分だと思いますので、その工事中、まず生徒が安全に登校できるような対策を十分に考えてとっていただきたいと思ひます。

次に、同様に北中学校の舗装工事、1,900平米で普通教室南側の通路及び駐車場については西正門から東裏門にかけて全面アスファルトで、昭和36年及び平成7年に舗装の拡幅を行っているが、舗装厚が薄く、経年変化によって摩耗しクラックが全域に広がっていると。その都度、技士による補修を行ってきたが、亀甲状にクラックが入っていることから穴があき、常温合材の補修では対応し切れなくなっていることから、2カ年に分けて舗装の打ち替えを行う。費用については1,047万円ということになってますけれども、その亀甲状にクラックが入った原因について、スクールバスなどの重量がかかり入ったというふうな話もありますけれども、その対策についてどのように行うのか、またほかの要因についてどのように検証しているのかを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 クラックの入った要因と対

策でございますが、亀甲状のクラックが発生する原因には大きく2つあるのかなというふうに思っています。

1つは、冬期間の異常な低温によりまして路盤に霧状の凍結が発生し、舗装部分が持ち上げられて破壊される場合でございます。また2つ目は、舗装厚が薄く、重量物の通行等により破壊される場合というふうな、大きく2つの要因があるのかなというふうに考えてます。

現行の舗装厚は、表層が3センチ、あと路盤工が5から7センチというふうなことで、通常に比べて簡易な施工であったということで、工事車両やスクールバス、除雪作業車等の重量物の通行が、やはり長年にわたってあったこと、あと過去の冬期の異常低温などによる破壊及び経年劣化というふうなことが原因で、やはりあのクラックが入ったものというふうに考えております。

なお、対策については、表層を4センチ厚、路盤工を15センチ厚というふうなことにすることで対応できるというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 先ほどその春の溶解時に氷になって、氷が解けることで支持力が低下して空洞が生じた、で、亀甲状のクラックが入ることなんですけれども、その対策としては、その下の材料を置きかえるとかなんとかつていうことはやられているのでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 下の材料というふうな部分については路盤工を従来5センチとか、非常に薄かったというふうなところもありますので、そこを掘削して路盤の厚さを15センチ厚にするというふうなことで対応できるのかなというふうには考えているところでございます。クラッシュランというふうなことを入れるというふうな形になろうかなと思っています。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その重量に、先ほども3センチを4センチ、5センチから7センチを15センチというふうにならざるということになってますけども、この対策だけでこれは解決できるというふうにならているということによろしいんですか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 先ほど申しあげましたように、このたびの工事につきましては既存の舗装版を取り壊して、掘削した上で15センチ厚の路盤をつくるというふうなことでございまして、その厚さにつきましては15センチというふうなことでありまして、それは平成22年度に施工したダイエー跡地の、今現在、市民駐車場になっております、その厚さ等を参考にしてございまして。でしたので、現在もそのクラック等は発生してないというようなことから、舗装厚が4センチ、路盤工の厚さが15センチというふうなことで十分対応できるというふうに私どもは考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 工期が夏休み中に行うというふうにしておりますけども、その生徒の行動に際して安全対策を行うため区分けをする必要があると思うんですけども、工事用車両が通行する道路では、部活などで登校する生徒の安全上の留意点及び対策について教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 安全対策につきましては、やはり学校さんや施工業者さんと十分に協議をしながら、やはり工事箇所及び工事車両の動線と、生徒なり校舎の動線とが重ならないようにというふうなことは前提ではありますが、具体的にはバリケードによる工事エリアとの区分けや生徒への注意喚起、あと指導等を十分行っていくというふうなことでございます。以上でございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その工事を行うところは通用口の部分になるわけですから、逆に言うと、生徒が部活で登校してきた際には新たな通用口を設けて、当然監視員が立ってという部分でやられるとは思いますが、そういったことまで全てその工事費用の中に入っているという考え方でよろしいのでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 先ほど申しあげましたように、バリケードというようなこともつくりながら、工事エリアとのところの区別をきちんとするというふうなことでありますので、そういうふうな部分で、やはり安全対策ということは十二分に注意しながらやっていくというふうなことを考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その生徒の安全対策は、先ほどのグラウンドの整備と同じように、非常に重要なことだと思いますので、その辺は十分工事関係者と打ち合わせを行っていただいて、事故などがないようにしていただければありがたいと思います。

最後に、産業・建設常任委員会協議会で農林課より説明がありました6款農林水産業、1項農業費、9目の有機物再資源化対策事業費で、工事費610万円、コンポスト運営事業で、平成9年から稼働しているコンポストセンターがこととして20年目を迎え、設備の老朽化と腐食化が進んでいるため、修繕や更新が必要な箇所について対応、緊急性が高い堆肥化原料搬送コンベヤーの改修とあります。

産業参事に伺いますけども、工事期間はどの程度を見込んでいるのかを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 お答えします。

工事期間は約1カ月と考えております。まず最初に、既存のコンベヤーを撤去するのに1週

間程度、そして新規のコンベヤーを設置するのに3週間程度、合わせて1カ月程度というふうに見込んでおります。

- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 期間中、その従業員はどのようになさるのかを教えてくださいませんか。工事期間中、従業員の方のその作業に関してどのように考えていらっしゃるのか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 その期間はほかの機器の点検であるとか、コンポストセンター内の清掃であるとか、そういうような業務に当たるというふうに考えております。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 1カ月間もやっていらっしゃいますか。機器の点検とか、掃除とか、1カ月間もやられますという部分なんです。要するに、逆に言うと、その1カ月間とまるんですよね、コンポスト、まるつきり。とまらないんですか。そこはいかがなんでしょうか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 その期間はとまります。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 逆に働いてる方をどこかに回して、ほかの作業をやってもらうなりをしていかないと、もったいなくないですか、機器の点検とか、1カ月間補修してるだけっていうのは。と私は思うんですが、非常にその、何も書いてはいらっしゃらないもんですから、やっぱり当然1カ月間、従業員の方はただ黙って工事の確認をしていらっしゃるのか、あとは機器の点検だって、そんなにそんなに大した設備ではないです。攪拌している機械、要するにコンポストの堆肥を入れて攪拌するだけという部分の工事、作業内容の中で、点検ってそんなに1カ月もかかるのかなという気分がありますので、その辺はやっぱり今後ちょっと検討していただきたいと思うんですけども、その辺はい

かがでしょうか。

- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 その辺、現場と協議して調整したいと思います。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 1カ月間、黙って遊ばせておくというのは非常にもったいないので、やはり何らかの対策を立てて、何かの仕事をやってもらうなり、やっぱり費用かかっている部分なので、何らかのところに行って作業をしていただくように、ぜひ考えていただければと思います。
- 1カ月間、その生ごみの収集もとまるという考え方でよろしいのでしょうか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 生ごみの収集については、通常どおり行くと。ただ、工事期間中、そのコンポストセンターが稼働できないということになるので、その収集したものはクリーンセンターのほうへ搬入するというふうなことを想定しております。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 クリーンセンターのほうに持って行って焼却するという形ですか。生ごみ、ポリバケツに入ってやっていますよね。それをそのまま回収して行って、それをだだっど流して燃やすということになるんですか。それはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 現在の対応では、そのような方法、これはいたし方ない方法というふうに思っております。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 非常にちょっと信じられないんですけど、生ごみを収集したやつ、とってはおかないと。当然、長井市内、1カ月間とかなりの量になると思うんですけど、その部分に関しては全て焼却処分という考え方をしてる

ということによろしいのでしょうか。

- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 保管場所の問題であるとか、あとはそのにおいの問題とか、そういうことが想定されるということもあるものですから、これはクリーンセンターで処分、処理するというふうに考えておるところでございます。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 それであれば、逆に言うと、そのごみ袋を渡して、その生ごみ、収集用であれば収集用でごみ袋を渡して、それに入れてもらったほうがいいんじゃないですか。わざわざ逆に言うと、そのポリバケツに入れて水気を切って、それを集めてって、今度はそのポリバケツ、水気を切ったやつを掃除しなきゃなんないじゃないですか、各地区で。そんな無駄なことをやってるんだったら、それこそ袋を渡して、この袋にこの1カ月間は入れてください、これは焼却処分しますというふうなことはできないんですか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 そういうことの検討もあろうかと思いますが、その期間的なこと、あとは混乱が生じるというふうなことも想定されるものですから、通常どおりの収集をして、それを処分するというふうなことを今、考えておるところです。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 混乱が生じるという部分は確かにあるかもしれませんが、やっぱり当然ごみ出される方はコンポストでレインボープランの思想によって、当然堆肥化がなされて、それがという部分のサイクルで動くもんだと思うものが、その1カ月部分に関しては完全に焼却処分という部分になっているわけですよ。だから、逆にそれは市民の方に当然お知らせをして、何月から何月までの生ごみに関しては廃棄処分しますというふうな形のお知らせはなさ

るんですか。

- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 今のところはその検討はしておりませんでした、上司と相談しながら検討をしたいというふうに思います。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 ぜひ、やっぱり善意でやられていることを前提に物事を進めていらっしゃるようなんですけども、やはり余り善意で物事をやってもらえると思っていると、非常に後から大変なことが起きると思いますので、やはり情報としては、やっぱり与えて、こういう状況なんですけども、この期間に関しては焼却をしますが、とりあえず今の状況のまま進ませてくださいというふうなお願いをやっぱりしたほうがいいんじゃないかとは、私は思うんですけども、その辺はちょっと検討していただければありがたいと思います。
- あと、その工事に関しては、農林課で発注するのか、それとも指定管理先で行うのか、それはいかがでしょうか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 このたびの発注元は長井市農林課というふうな形になります。
- 五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。
- 4番 内谷邦彦委員 その発注先メーカーなんですけども、コンベヤーというのは自社で製作するのか、それとも交換工事に関しても、また自社の作業者が行うのか、それともどこかに委託してやるのか、その辺はいかがですか。
- 五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。
- 谷澤秀一産業参事 発注先については、今後その入札の方法で行っていかうというふうに考えております。そこで、その落札業者の業務形態によって、自社で製造する場合がありますし、またはその業者が製造するというふうなことも考えられると。工事の作業員についても同様なことかなというふうに考えております。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 ぜひお願いしたいんですけど、やはりそのコンベヤーであれば自社で製作するところが当然ノウハウを持っていらっしゃると思いますので、要するに市販品を買ってきて改造するよりは、自社でつくったもののほうが間違いなく、何か問題があった場合はそのメーカーさんに言えばすぐ修理していただける。ただ、その市販品を持ってきた場合は、当然修理するという部分に関しては非常に難しいと思いますので、その辺も検討してください。

あと、当然入札されたメーカーさんが自社の作業員が行う場合と、ほかに委託されちゃうと、当然やっぱり管理が行き届かないというふうに考えてますので、その辺もあわせて入札の際は見ていただければと思います。

あと、最後にそのコンポストの方向性について、今後どのように考えていらっしゃるのかを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 5月の産建協議会のときも申し上げましたところですが、このレインボープランにつきましては、これまでの経過から言いますと、その地域循環という理念、それに基づいて第五次総合計画においても環境とエネルギーの分野で、これは位置づけしながら推進しているということでございます。

これまで創エネルギー、蓄エネルギー、省エネルギー、そういった観点から調査事業なども行ってきておまして、今年度、下水汚泥の処理に関して、その国の報告書がまとまるというふうになっております。これらに関係する課で情報共有しながら、市長、副市長とも相談しながら、レインボープランと、あとエネルギー、その双方向からこの市としてどのような方向づけをしていくのか、それを協議、検討する必要がありますというふうに考えております。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 ぜひそのコンポストセンターに関しては、かかっている費用に対して収益が非常に悪い部分でもありますし、やはり実際、レインボープランの理念は非常にいいんですけど、現実問題、そのためだけにこれをやるというのは非常に私としては無駄が多いんじゃないかと思えます。だから、やはり今後に関しては生ごみに関してもどのようにしていくのか、その辺も十分考えていただいて、今回610万円も使ってるわけですから、今後に関しては、やっぱりその辺のことも考えながら、より有効的なお金の使い方をぜひ考えていただきながら、このコンポストセンターに関して今後検討していただければと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

### 町田義昭委員の総括質疑

○五十嵐智洋委員長 次に、順位2番、議席番号15番、町田義昭委員。

○15番 町田義昭委員 おはようございます。

私は長井市のまちづくりが後世に負担の少ないことを願いながら、予算総括質疑をさせていただきたいと思えます。

第8款に最上川河川緑地整備基本設計並びに実施設計業務委託料1,500万円何がしという金額が上がっておったんでありますけども、このことについて質問させていただきたいなど、そんなように思います。

ちょっと時間はたっぷりありますので、先日、文教常任委員会協議会で、所管の施設を数カ所検証させていただきました。野球場、そして大規模改修が終了した平野小学校、本当によく整備させていただいたなというふうに思った次第でございます。

特に平野小学校についてはちょうど30年ちょ